



アールビバン株式会社
〔ニュースリリース〕

平成 12 年 8 月 16 日

アールビバン、デジタルアート市場向け新会社設立

版画アート業界の最大手であるアールビバン(店頭;7523、本社;東京、代表取締役社長 野澤克巳)は、デジタルアート市場に本格進出するため、本日付で連結子会社(株)イーピクチャーズ(本社;東京青山、代表取締役 中井陽子)を設立した。本年4月よりの設立準備期間を経て、携帯電話の待受け画面チャンネル運営・アーティストポータルサイトの運営・インテリアアートのオンライン販売をおこなっていく。子会社の資本金は100百万円、アールビバン61%・野澤克巳(アールビバン社長)20%・中井陽子8%が主要株主。

イーピクチャーズは、携帯電話、DVD、インターネット等身近になったデジタル端末を通じ、デジタルアートを普及することにより、アールビバン本体のアート販売の裾野拡大の一環として新たな市場開拓を狙っていく。既に6月よりラッセン・池田理代子、7月より天野喜孝の版画アートをiモード向け待受け画面として配信をかけた約35,000件の申し込みを受けている。デジタルアート市場は、BtoC市場の他に、オフィス・業務向けインテリアアートのBtoB市場にも積極的に進出していく計画である。

アールビバンは、世界のアートを日本国内で大衆化させるための、作家発掘から、アート製作、販売の一環体制を確立している。アートのデジタル化により、従来版画アートの店舗・催事販売に加え、インターネット、モバイル、CD-ROM/DVD、デジタルTV等の新たなマルチチャンネルによるデジタルアートの普及を子会社を通じBtoC、BtoB市場に向けておこなっていく。

今回の子会社設立について、野澤社長は次のようにコメントしている。「会社設立以来、世界中のアートを日本の各家庭に普及させ、アートのある生活を提供したいと強く望んできました。インターネット、モバイル、デジタルTVの普及は、今までの店舗販売・催事販売・異業種提携販売に加え、デジタルという切り口からアートを普及させることが可能になります。デジタルでアートに親しんでもらい、本物のアートを購入してもらう動機付けにもなり、またアート自体のデジタル鑑賞による新たなユーザーの発掘につながるものと期待しています。」

2001年3月期のイーピクチャーズの売上は、1.1億円を見込み、連結業績に与える影響は軽微。

* * *

アールビバン株式会社は、版画業界のリーディングカンパニーで2000年3月期の売上高は136億円、経常利益51億円を誇るアート業界唯一の店頭公開企業である。世界中のアートを日本の消費者に普及させ、かつ日本のアートを世界に普及させることで躍進している企業。

上記内容についてのお問い合わせ

アールビバン(株)(担当:栗田)

電話:03-3407-9215 FAX:03-3407-5199

E-mail: kurita@artvivant.co.jp